

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

毎年地域交流会の皆様の協力で実施しております「地域を歩く」。入居者の方と中川原町内の名所、名跡を訪ねる取り組みです。

今回は三木田の松亀寺で5月13日に開催された護摩供養へのお参りです。10人の入居者さんがお参りされました。

この護摩供養は毎年この日に行われており、願い事が書かれた護摩を焚くことでお参りされた方々の無病息災、家内安全などを祈願されます。

当日は昨夜から降り出した雨が朝まで降り続いており、お参りは厳しい状況かと思われましたが、昼前には雨もあがり、お寺に着く頃には初夏の日差しに照らされるほどでした。

歩く事ができる入居者の皆

～地域を歩く～

松亀寺の護摩法要にお参り



▲燃え上がる護摩に魅入る入居者さん

さんは、お焚きあげが行われる護摩段の近くまで行って、火がつけられると燃え上がる迫力に驚かれました。

縁あってふくろうの郷へ入居された皆さんに、これからも町内の季節の伝統文化を訪れて、地域の事を知っていただきたいと思います。

松亀寺のご住職様、お接待いただいた地域の皆様、入居者に付添いただいた地域交流会の皆様、ありがとうございます。(生活援助係 神代)

ふくろうの郷のある中川原では早生玉ねぎの収穫を終え、晩生の収穫が始まりました。「今年の玉ねぎは安いなあ」「いやいやそんなことはない、これからや」近所ではそんな会話が聞こえてきます。おのころの家の玉ねぎはどうでしょう。収穫後の田んぼでは、田植えに大忙しです。

童心にかえって 中川原小学校運動会

5月20日(土) 中川原小学校の運動会に入居者さんが参加をされました。快晴な天気と気温も重なり、入居者さんは応援にも熱が入り、汗ばんでおられました。

午前中は、ダンスやかけっこを見学し、頑張って走っている子ども達に「がんばれ！」と声を掛けたり手を振っておられました。

午後からは、入居者さんの出番の玉入れです。紅白に分かれ、小学校の子どもたちが渡してくれる玉を「入れ」と籠を指

して投げられていました。山崎栄子さんは、玉が入ると「子どもの頃は玉入れは強かった。」と童心にかえられました。表情で話されました。小学校すら入学できなかった入居者さんも生き生きと玉入れを楽しんでおられました。

暑い中、テントの準備や、お手伝いをいただいた地域交流会の皆様、中川原小学校のご配慮にも感謝申し上げます。

(生活援助係 鈴川・飛松)



▲「入って」「入って」と玉入れ

ふくろう BBQ 大会 7月1日(土)

午後4時～7時

今年は屋台風挑戦!

詳しくは、ちらしをご覧ください

みなさんの参加をお待ちしております。

☆☆☆どんな屋台があるか、

来てのお楽しみ☆☆☆



ふくろう物語 魚住 佐代子さん

魚住さんは南あわじ市(旧西淡町)生まれです。地元あり、健康状況もずいぶん改の学校を経て中学1年から善善されていきました。

健康も回復、生活の楽しみもひろがる

書道や絵手紙、料理講座など、専攻科を卒業後、和裁や瓦の仕事に。嫁がれてからはご主人の実家が営んでいるちりめんじゃこ製造を手伝うなど頑張っただけで、時間も手話での会話を楽しんでおられます。時には他の入

平成23年にご主人が亡く居るの車いすを押してあげたり、佐代子さんは「おのこたりの家」に通所、得意の編み物で、小物を作ったりもして

持病の悪化でつとむことが困難

若いころからの糖尿病が悪化し、救急搬送されたのをきっかけに、一人での生活が

不安な状態となっていました。心配された義兄夫婦の勧めもあってふくろうの郷に入居することになりました。入居後は看護師さんの健康管理・援助や職員の見守りもや自治会活動にも参加を続けていただき、楽しく過ごして頂けるよう様々な支援をして行きたいと思っています。

(生活援助係 三好)



▲ふくろう大学の書道を楽しむ魚住さん

お詫びと訂正

5月号でお知らせしました21老福連主催の第17回職員研究交流集会のテーマが間違っていました。正しくは「めっちゃええやん 福祉の仕事～あきらめない実践を語り合い希望のあかりで照らし出そう!～」です。

お詫びして訂正いたします。

施設見学会



先ずはふくろうの郷を知ってもらうことが

昨年8月から休止となっていた短期入所の再開が最優先課題となっています。まずは「ふくろうの郷」を知ってもらうことが大事と施設見学会を5月に3回開催しました。それに先立ち、

5人の採用を予定

実際には、転職希望者や主婦など6人の方に来ていただき、そのうち5人がふくろうの郷や中川原高齢者・障害者地域ふれあいセンターで、希望に合わせ常勤、パート等で採用の予定となっています。

見学された方は、施設建設の経過や一人ひとりであった入居者の暮らしづくりの説明を聞いて、非常に共感いただき、是非ここで仕事をしたい、

願いました。今後「ふくろうの郷」の良さを知っていただく取り組みを工夫し、短期入所を早期再開できるように取り組んでいきます。

京料理を楽しむ会

5月21日、「京町料理みつや」料理長の松村様のご協力のもと、本格的な京料理を入居者と楽しみました。

この日の為、調理職員は松村様からお料理を習い、1週間かけて準備をおこないました。また、入居者と一緒に折り紙で花飾りをたくさんつくり、作業場や喫茶がお花飾りに囲まれ、素敵なお食事会場に大変身!

入居者さんもおめかし。前田さんは「着物が着たい」とおっしゃり、職員が着付け、自身でお化粧されて、始終笑顔でした。1か月前から、「京料理いつ?」と何度も聞かれ、楽しみにされていた竹辺さん。当日はとびっきりの笑顔で食事し、「おいしかったです。ありがとうございます」とおっしゃいました。

三日かけて作った出汁を使ったお料理。どれも出汁の奥深さを感じられる、美味しいお料理でした。入居者の皆さん、ほとんどきれいに食べておられました。一日かけて作る煮穴子のお寿司はとても柔らかくて、「お寿司がおいしかった」と言われる

先日は楽しい時間をすごさせて頂き、また貴重な体験をありがとうございました。職員の皆さんも私も慣れないことでいろいろ大変さもありましたが、職員の皆さんの素晴らしい向上心のお蔭で、皆さんが喜んでいただける料理が作れたかと思えます。入居者さんや職員の方々の笑顔に癒されました。今回の経験を糧に、更においしい料理を作れるよう励みにします。本当にありがとうございました。

京町料理みつや 料理長 松村知典



▲ご家族と京料理を楽しまれる番匠英夫さん。いつもまましてうれしそうです

方が多かったです。温かくて、ほっこりするような一日でした。お忙しい中来て下さった松村様、準備を手伝ってくれた入居者さん、当日のウエイターをしてくれたボランティアさん、「おいしかったよ」とお声掛けしてくれた地域の皆さん。本当にありがとうございました。栄養調理係 竹原

楠公連さん (神戸徳島県人会) 楽しい時間をありがとうございました

6月4日(日)昨年に引き続き、今年も楠公連さんが訪問してくれ、見事な踊りを披露してくれました。入居者にとって毎年、島祭りに参加し、親しんでいる踊りです。見ていた入居者も軽快な踊りに、「おどりゃな、そん、そん」と。山崎さんは見事な手さばき、足さばきで、連の方から「上手ね」と声かけられとても嬉しそうでした。



▲輪の中に入って踊りだす山崎榮子さん。6/18・19日には長崎に里帰りし、原爆資料館ホールで講演の予定です。(主催は長崎県聴協・全通研長崎支部)

6月10日評議員会で更なる審議を

国の社会福祉法人改革によって新しくなった定款に基づく理事会が、5月27日(土)に開催されました。

今回の理事会は6月10日の評議員会に先立つもので、平成28年度の事業報告・決算を中心に長時間の審議となりました。昨年度の特徴は「神戸ろうあハウス」と「生きがい対応型デイサービス」のNPO法人神戸ろうあ協会からの経営移譲及びふくろうの郷の短期入所事業の休止です。後者の影響で、介護保険収入が減収しました。審議も人件費比率や人材確保に関することがほとんどでした。事業報告や決算は当然ではありますが、今年度の発展につながる課題分析がなされなければなりません。

新しい定款のスタート。定款を変更していく過程は、現在の理事・監事・評議員がそれぞれの役割や法人運営について見直す機会となりました。その過程を経て、これからさらに厳しくなる福祉にどう立ち向かっていくかを運営の中で考えなければなりません。

また、この厳しい局面を乗り越えていくには法人職員ひとり一人が、大きな視野を持ち、ふくろうの郷を守っていく気概、知恵と工夫を持つことも必要です。来る6月10日の評議員会での忌憚のない意見を期待しています。

(法人事務局長 橋詰恭子)

**淡路聴覚障害者
センター便り**

5月13日(土)第1回社会生
活教室は「ゴミの分別化」につ
いてのテーマで中川原ふれあ
いセンターで開催し24名が参
加されました。

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

ゴミも大切な資源に

午前は淡路島内3市の環
境課の方に来ていただき各
市のゴミの処分状況や新し
い制度についてお話しして
いただきました。ゴミの最終
処分場でも容量の限界があり、
減量化、リサイクル率の向上
が求められています。島内3
市ともゴミの総排出量はほ
ぼ同じですが、南あわじ市
は、他市と比べるとゴミが細
かく分別され、分別されたも
のはリサイクルされるなど
資源化が進んでいます。実際
のリサイクルの様子をDV
Dで鑑賞し参加者からは「ペ
ットボトルが洋服の素材に、
またガラス瓶は断熱材のグ
ラスウールとして家の壁の

中に使われていたり日常の身近なものに変わっている」と驚かれ、ゴミを減らし、資源として使うためにも分別は大切であることを学びました。



▲大型ごみの有料化について洲本市の担当者から説明を受ける参加者

ゴミ、きちんとルールを守って出していますか？

洲本市は 大型ゴミの有料化へ

洲本市からは島内3市で初めて、4月から実施している大型ゴミの有料化・回収方法について、パンフレットを見ながら説明を受けました。「他の市も、もったいなく分別や有料化になるのか」と、普段気になっていることが次々と出され、各市担当者から直接お答えいただきました。

家庭でのゴミ減量化の工夫について

午後はグループに分かれ、それぞれの家庭でゴミを減らす工夫や、出すときの方法など話し合いました。「ゴミの分別の表を見ても分かりにくいので、他の人が出している様子やエコステーションの種類別の絵を見て出している」「ご近所で、畑に底がないドラム缶を置いて生ごみを入れ、畑の土の栄養となるようにしている人がいる」など、様々な話がで、身近な問題だけに関心の強さを感じられました。参加した西田さんは「地域によってゴミ袋の大きさや値段も違う。ゴミを出す時に気を付けることがわかった。他市の状況も聞けて良かった。今後はリサイクルできるようにゴミの分別をきちんとしたい」と感想を話されました。

(高木 恵理)



▲センター職員と筆談で和やかに
にお話しされる初田ふみゑさん

5月24日、南淡地区の移動相談にて初田ふみゑさんを訪問しました。
1人暮らしをされており、今回はいつも利用されているデイサービス事業所に訪問させていただきました。

各地域を巡回相談・南淡地区編

部屋を訪れると、センター職員の顔を見て「久しぶりに会えてとても嬉しい」と言ってお涙ぐみながら喜んでくれました。「今は自宅に誰もいないので、家が心配。足が悪いけどリハビリを頑張って元気になり、伊弉諾神社へ行きたい。そして、今後も通院の際は要約筆記お願いね」と話されました。

これからも、家庭訪問を行い、生活状況や健康状態など困った時にもセンターに気軽に相談していただけるような関係を築いていければと思っています。(ろう相談員 吉川 稔)

ろう者の方と手話で 自然に会話できること目標に

手話奉仕員養成講座始まる 島内4か所で

平成29年度手話奉仕員養成講座が5月11日より始まりました。長期コースは淡路市・洲本市(昼・夜)、短期コースは南あわじ市でそれぞれ合わせて4会場に43名の申し込みがあり受講生の皆さんに受講するにあたり、抱負や目標をお聞きしました。

- ・修了するころには、テキスト通りの手話だけでなく、自然な会話ができるようになりたい
 - ・日常の事も、ろう者の方にどうやったら伝わるかという観点で考えられるようになりたい
- など、皆さんろう者と手話で会話できるように毎週講座に励んでいます。

「さくらショップ」がオープンしました



4月10日(月)中川原地域ふれあいセンターにて、「さくらショップ」がオープンしました。

毎日午前10時～午後2時30分ごろまで、日用品や産地野菜・お菓子等を販売しています。仕入からディスプレイ・販売など、おのころの家の利用者さんが担当し試行錯誤しながら、皆さんが気軽にご利用いただけるようなお店になるように頑張っています。

ご要望などあれば、相談にものりますのでぜひ遊びがてら気楽にお越しください。看板娘が、にこにこ笑顔でお待ちしております。

(おのころの家 田中)

お知らせ 第2回わくわくフリーマーケットin中川原

日時:2017年 7月23日(日) 10時～16時

詳しくは、別紙のチラシやふれあいだよりでご案内しており、友人、知人に声かけ参加をお願い致します。

第2弾 特産玉ねぎ (ターザン)生産直売!

申込期間:6月中旬～7月



詳しくは、別紙の申込書を配布致しますので、ご注文をお待ちしております。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター



〒656-0002

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

TEL 0799-28-0990

FAX 0799-28-0992



5月27日(土)、洲本市社会福祉協議会と共催で縁むすびイベントを開催しました。

男女合わせ約30名が参加し、中川原ふれあいセンター内にある緑に囲まれたスペースで青空のもとバーベキューや石釜のピザ作りで交流を深め、3組のカップルが誕生しました。(萩原)



再起動!! ハッスル神戸

4月1日(土)施設建設推進委員会の決起集会后、「ハッスル神戸」の決起集会がありました。「ふくろうの郷」が建った後、その時の建設委員会の神戸ブロック委員会が解散するのはもったいないと「ハッスル神戸」に名称を変更し、新規にスタートしたのです。その目的は「ネットの会員拡大」「神戸の事業活動の支援」の2つです。兵庫県下の聴覚障害者実態調査をする事になり、平成24年、ハッスル神戸は休会になりましたが、この度、事業拡大を伴った神戸ろうあハウス移転や新長田への新たな施設建設が具体化し、再起動に至りました。4月28日に各区の目標額への取り組み方法などについて、1回目の会議が開かれ情報交換しました。いよいよ募金活動の開始!!です。(神戸ろうあハウスデイサービス 眞木)



1億円達成 頑張ろう!



神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会は、**情報・コミュニケーション支援(手話・筆談等)**が必要な聴覚障害児・者に配慮した福祉サービスの拡充と新たな社会資源創出等の環境整備を求めて、2015年7月に立ち上げました。施設建設の取り組みを進めています。

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き N033

北岡 肇

ま 松葉くわえて

小亀の現れた純満山・松亀寺

淡路ふくろうの郷の玄関から西の山々を眺めますと、一番高い山が先山(448メートル)、その麓に純満山・松亀寺(中川原町三木田字安田923)が創建されていますが、寺院の姿は見えません。

この寺院は、古くは中川原三木田字宮林茂原に、炬口八幡神社の旧地と伝えられる八幡神祠から南東に続く雑木林の中に「純満山・密厳院」として元禄6年(1693)開基法印・頼永大和尚によって開山され、以来(1711)16)のころまで祭祀されていましたが、当時の侍僧が、かねがね「寺地を外に移さんことを思う」ていたところ、ある夜「夢に天童(佛にかえる子ども)が現れて云う。汝(なんじ)精舎を外に移さんことを思う

に、これより5・6町西に霊地あり佛像永久の地となるべく、正月元日小亀出づべし、そのところ即ち、求めるところなるべし」お告げがありました。侍僧が待ちに待った正月元日、夢に見た現地に行ってみると「松葉をくわえたる亀が現れ、夢が端兆となった」そしてこの地は寺家を創建して寺号を「純満山・松亀寺」と号くと云」とかかれています。

建立当時、本尊は大日如来、脇侍は不動明王、観音菩薩でしたが、現在では観音菩薩はなく弘法大師をお祀りしているということです。

本堂南東には勧請した福德大神をお祀りしています。境内には大將軍地藏尊が祀られ、小高い丘陵には、淡路三観音霊場として中央に白衣観音、東側に聖観音 西側に宝珠観音さん、また地下には大理石に刻まれた仏定石が安置されています。尚この寺の墓地には、飛騨高山の城主、金森出雲守五郎八入道長近公の墓や供養塔があり、菩提寺でもあります。

参照 松亀寺縁起の由来より

6月・7月 ふくろうの暮らし

- 6/6 誕生日会
- 6/16 手芸・ちぎり絵
- 6/18・19 里帰り支援 (山崎榮子さん 長崎市)
- 6/21 ふくろう喫茶
- 6/23 料理講座
- 7/1 バーベキュー大会 (ふくろうの郷玄関)
- 7/3 ふくろう理容店
- 7/4 書道講座
- 7/13 絵手紙講座
- 7/23 中川原わくわくフリーマーケット
(中川原高齢者障がい者地域ふれあいセンター内)
- 7/27 里帰り支援 (吉見輝子さん 和歌山市)

ふくろうの郷見学予定

- 6/13 高槻市民生児童委員 (50名)
- 6/16 川西市ボランティア連絡協議会 (60名)

【職員からのメッセージ】

手話を身に付けて淡路ふくろうの郷に就職しましたが、現場に入ってから聞こえない入居者さんとのコミュニケーションは、身振りや筆談なども交えた工夫が必要で、会話の基本が試されているようでした。手話技術の有無は問わず、相手の気持ちに合わせて考えることができる、そんな方にぴったりの職場です。

《生活援助員 川満 和則》



施設見学会

8月12日(土)・8月18日(金)
(午後1:30~3:00)

見学をご希望の方は事前にふくろうの郷まで。なお、その他の日でも対応いたします。事前にご連絡ください。

職員募集

生活援助員・調理員・ケアマネ・農作業援助員

採用試験 7月15日(土)

お問合せは 淡路ふくろうの郷総務まで
TEL 0799-25-8550 FAX 0799-25-8551